

<http://pweb.cc.sophia.ac.jp/shimokawa/>

[授業の目的・内容・進め方・履修上の条件等]

国際政治経済諸問題をより深く理解する能力を育てる。その際経済学的な分析方法・視点を身につけることを重視する。今年は、特にグローバル化と貧困と開発（援助）とオルタナティブな発展を中心に考察したい。具体的には以下のような教科書的なものや論文等の文献を読んで討論する予定だが、最終的には授業の参加者と相談の上決定する。経済学の基礎的知識があることが望ましいが、そうでない場合、学部開講の国際経済学 1,2 を受講することが強く勧められる。また上述のテーマの基礎として国際政治経済論 1,2 を併せて受講することも強く勧められる。

[評価方法]

ゼミでの割当の発表、毎回の参加の度合い及び発言内容、期末試験（？）等で総合的に評価する予定。場合によってはタームペーパーも要求する。

[共通文献購読について]

<テキスト>

幡谷則子、下川雅嗣 [編著] (2008)『貧困・開発・紛争：グローバル/ローカル相互作用』（地域立脚型グローバルスタディーズ叢書第3巻）上智大学出版会。

※テキスト以外に授業で使う論文については下記参照。

<参考文献>

絵所秀紀、穂坂光彦、野上裕生 [編著] (2004)『貧困と開発』日本評論社。

西川潤、高橋基樹、山下彰一 [編著] (2006)『国際開発とグローバリゼーション』（シリーズ国際開発第5巻）日本評論社。

村井吉敬、安野正士、David Wank [編著] (2007)『グローバル社会のダイナミズム：理論と展望』（地域立脚型グローバルスタディーズ叢書第1巻）上智大学出版会。

<日程・内容・Reading List>

下記日程は目安ですので、若干前後したり変更する可能性があります。なお、以下の論文のリンクは上智大学内のコンピュータからしか開けないものもあります(時間不足でリンクをつけてないものもあります。各自で探してください)。

1. 4/16：イントロダクション、自己紹介、内容・進め方の決定。

＊グローバル化、開発援助、海外直接投資、経済成長、貧困、(教育)の相互関係。

2. 4/23：経済成長と貧困①

(必読) 『貧困と開発』第1章「経済成長と貧困・雇用：Pro-Poor Growth 論の系譜」

(参考) Dollar and Kraay (2002), "Growth is Good for the Poor," *Journal of Economic Growth*, 7 (3), September, 195-225.

<http://www.springerlink.com/content/u47r374434v07234/?p=bf6000ebe90244d8937de2f2bc7bb0c4&pi=0>

3. 4/30 : 経済成長と貧困②

(必読) 山崎幸治 (2007) 「経済成長の貧困削減効果ダラー＝クライ論文の再検討」『経済学論究』60 (3)、149-167。(変更の可能性あり)

<http://kgur.kwansei.ac.jp/dspace/bitstream/10236/1402/1/20090323-3-41.pdf>

(参考) Lubker, Smith and Weeks (2002), “Growth and the Poor: A Comment of Dollar and Kraay,” *Journal of International Development*, 14, 555-571.

<http://www3.interscience.wiley.com/cgi-bin/fulltext/96516747/PDFSTART>

Ashley, Richard (2008), “Growth may be Good for the Poor, But Decline is Disastrous: On the Non-Robustness of the Dollar-Kraay Result,” *International Review of Economics and Finance* 17, 333-338.

http://ashleymac.econ.vt.edu/working_papers/growthgood.pdf

Amann, Edmund, Nektarios Aslanidis, Frederick Nixson and Bernard Walters (2006), “Economic Growth and Poverty Alleviation: A Reconsideration of Dollar and Kraay,” *European Journal of Development Research*, March, 18 (1), 22-44.

<http://web.ebscohost.com/ehost/detail?vid=3&hid=101&sid=507c3083-a66f-4c05-a585-4cd8bd426a53%40sessionmgr8&bdata=JnNpdGU9ZWhvc3QtG12ZQ%3d%3d#db=aph&AN=21806776>

4. 5/14 : 開発援助、経済成長、貧困削減

(必読) 『貧困と開発』第2章「開発援助と貧困削減の経済学」(澤田康幸)

(参考) Easterly, W. (1999), “The Ghost of Financing Gap: Testing the Growth Model of the International Financial Institutions,” *Journal of Development Economics* 60 (2), 423-38.

Burnside, C. and D. Dollar (2000), “Aid, Policies, and Growth,” *American Economic Review* 90 (4), September, 847-868.

Easterly, W. (2003), “Can Foreign Aid Buy Growth,” *Journal of Economic Perspectives* 17 (3), 23-48.

Easterly, W., R. Levine and D. Roodman (2004), “Aid, Policies, and Growth: Comment,” *American Economic Review* 94 (3), 774-780.

5. 5/21 : グローバル化、経済成長、貧困

(必読) 『国際開発とグローバリゼーション』第1章「グローバル化する世界と貧困」(山崎)

(参考) 戸堂康之 (2008) 『技術伝播と経済成長：グローバル化時代の途上国経済分析』勁草書房。(→これは、後期に読んではいかがでしょうか)

6. 5/28 : 開発援助、海外直接投資、経済成長 (変更の可能性あり)

(必読) Todo, Yasuyuki and Hidemi Kimura (2007), “Is Foreign Aid a Vanguard of FDI? A Gravity-Equation Approach,” RIETI Discussion Paper, No. 07-E-007,

- 2007 (邦訳 「開発援助は直接投資の先兵か?重力モデルによる推計」. 経済産業研究所ディスカッションペーパー, no. 07-J-003, 2007.) . ([Full Text](#), [日本語訳](#))
7. 6/4 : 開発政策・開発援助と貧困層の実態 (変更の可能性あり)
 (必読) David Satterthwaite (2001), "Reducing urban poverty: constraints on the effectiveness of aid agencies and development banks and some suggestions for change," *Environment and Urbanization* 13 (1), 137-157.
<http://eau.sagepub.com/cgi/reprint/13/1/137>
 Plessis, Jean Du (2005), "The growing problem of forced evictions and the crucial importance of community-based, locally appropriate alternatives," *Environment and Urbanization* 17(1), 123-134.
<http://eau.sagepub.com/cgi/reprint/17/1/123>
8. 6/11 : 日本の開発援助 (未定)
9. 6/18 : 近代化・開発・発展についての基本的考察
 (必読) 『国際開発とグローバリゼーション』序章「開発とグローバリゼーション」(西川) 『グローバル社会のダイナミズム: 理論と展望』内のファーガソン「近代の神話の解体—進歩主義以後の時代における歴史と階層序列」(下記のリンクは書籍になる前の未完成版日本語翻訳前(英語)です。)
<http://pweb.sophia.ac.jp/shimokawa/class/2004/ferguson.pdf> (英語)
10. 6/25 : 貧困者の現実、彼らの歩みとオルタナティブな発展
 (必読) 『グローバル社会のダイナミズム: 理論と展望』内の下川「貧困者の現実、彼らの歩みとオルタナティブな発展」(下記のリンクは書籍になる前の未完成版なので、書籍に収録されているものが完成版です)。
<http://pweb.cc.sophia.ac.jp/shimokawa/poverty/proceedings.pdf> (日本語)
<http://pweb.cc.sophia.ac.jp/shimokawa/poverty/process.pdf> (英語)
11. 7/2 : 『貧困・開発・紛争: グローバル/ローカルの相互作用』序章と村井論文
 12. 7/9 : 『貧困・開発・紛争: グローバル/ローカルの相互作用』幡谷論文と福武論文
 13. 7/16 : 『貧困・開発・紛争: グローバル/ローカルの相互作用』佐伯論文と久保論文
 14. 7/23 : 『貧困・開発・紛争: グローバル/ローカルの相互作用』下川論文と終章
- 秋学期: 国際政治経済論研究2(ケース・スタディ)について*******

秋学期は、修士論文等執筆の中間報告を優先させて行いますが、その合間に、上述の参考としてあげた論文や本を読んでもよいと考えています。また途上国スラムでの貧困者の活動を中心とした事例紹介的な論文を読んでもよいかもしれません。最終的には後期に集まった人の顔を見て考えます。ただし、春学期に参加して秋にも続ける予定の人の意見を重視するかもしれません。春学期の終わるころに希望があればお知らせください。後期も続けて参加したい人の意見を尊重したいと思います。